



# 恕の心



令和4年2月2日 校長 廣瀬 真樹

## 稚心を去れ！

### 立志に向けて

昨年に引き続き、2年生の教室におじゃまさせていただき、「立志」についてお話をさせていただきました。立志とは14歳になるのを機会に自分でこれからの目標を立て、誇りと自覚をもってその実現に努力していくことを誓うという事です。残念ながら「立志のつどい」の開催はできなくなりましたが、地域の方や大人が皆さんの成長を願い、期待していることは忘れないでほしいと思います。授業の内容を一部紹介したいと思います。1・3年生の皆さんにもぜひ分かってほしい、そして考えてほしいことです。

幕末に福井で生まれ、高い志をもって活躍しながらも26歳で安政の大獄によって命を絶たれた橋本佐内という人がいます。この人が自分への戒めとしてかいた啓発録の中に「志を立てよ」というのがあります。これが「立志」という言葉の始まりです。佐内は「自分の中身を育てるのは親でも他人でもなく自分である。強く正しい人間になるためには自分から進んで自分の心を鍛えなければならない」と言っています。

もうひとつ啓発録の中で「稚心を去れ」という言葉があります。稚心=幼稚な心、つまり子供っぽい心という事ですが、具体的にどんな心でしょうか。佐内は『稚心とは子供じみた遊びをいつまでも好む心、両親の目を盗んでは勉強ややるべき仕事をサボり、そのくせ困ったときは両親に頼ろうとする心…これらはみな幼いうちは許されても、13、14という学問をする年になってもこういう心が残っているようでは何をやっても上達せず、一人前になることはできない』こう言っています。

このあと全員の生徒に「あなたが考える稚心(幼い心)ってどんな心？」と聞きました。

「人を馬鹿にする心」「相手の嫌なことを平気でする心」「自分の好きなことだけ頑張る心」「やってはいけないことをやってしまう心」「すぐ人のせいにする心」……………

2年生全員がしっかり自分の考えを言う姿に成長を感じた瞬間でした。

うらに続く



## 廣瀬が考える稚心とは

### ①いつまでも人に寄りかかって甘えている心

(何かあると「でも」「だって」と言って、人のせいや言い訳ばかりする人)  
(何をやるにも友達と一緒にしないとできない人、すぐに群れたがる人)

### ②自己中心的で思いやりに欠ける心

(相手の気持ちを考えない発言や行動をいまだに平気でできる人)  
(人の失敗を発見するのがとっても上手な人)

### ③物事をじっくり考えられない心

(ルールやマナーを守れない、その場だけ良ければいい人)  
(やらなければいけないことはやらず、楽しいことだけ頑張る人)



「人の振り見て我が振り直せ」(\*他人の行動を見て感じる場所があったら、わが身を振り返り改めるべきところは改めなさい)ということわざもあります。

今回2年生全員が発言してくれた「稚心」は油断すると自分の心の中にもあるかもしれないし、( )に書いてあるような行動をとってしまうことがある人もいるかもしれません。いつまでも「子どもだから」という甘えは通用しないし、それは中学生としてはとても恥ずかしいことだと思います。

この「稚心を去れ」は昔の人の言葉だけど今にも当てはまる大切な言葉だと思います。ぜひ覚えておいてください。

[今日の言葉]

大人として  
稚心に別れを